

超高速知能ネットワーク社会に向けた新しいインタラクション・メディアの研究開発（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
13 - 06	A	<p>サブテーマは4種設定されている。そのうち「五感メディア」は最も競合研究が多い分野であるが、香り提示装置等、企業化を指向したユニークな成果を上げている。「協調メディア」ではインタラクション・コーパスを提唱しており、学術的な新しい枠組みとしても期待できる。「体験コミュニケーション」は実際の展示会場を用いての実験であり、現実的・実証的な取り組みは高く評価できる。「知育メディア」もこれらの要素技術の適用分野としては有望である。これまで日本では、様々な要素技術を新しいコンセプトやシステムあるいはサービスとしてまとめあげるといった提案が少なかった。本研究はそのような数少ない提案の一つと考えられる。</p> <p>基本的な事業計画については、受託企業内の技術リエゾンセンターを通じて提携会社との共同製品化の形態を志向しているが、研究開発課題のほとんどが先端的なことから、この方法は妥当である。受託企業内の注力度も高く、課題毎にきめ細かく事業化プロセスが設定されており、今後はこれら事業化のための提携企業の具体化を図っていく必要がある。なお本研究開発成果が創造する市場は独自性が高い上に、需要シナリオの道筋が論理的であり、事業化に関しても「体験共有」というユニークで新しいコンセプトには、今後の成果を期待させるものがある。</p>		